



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVET THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

未来のために、自分自身のために

汚染処理水「海洋放出方針決定したい」

東京電力福島第1原発のタンクにたまり続けている汚染処理水の処分を巡り、菅義偉首相は7日、全国漁業協同組合連合会の岸宏会長と首相官邸で会談した。会談後に岸氏は取材に応じ、菅首相から「(海洋放出に向け)政府の方針を決定したい」と言われたことを明らかにした。岸氏は「放出に反対という姿勢は変わらない」と伝えたという。

岸氏によると、菅首相からは「処理水の処分は避けて通れない。海洋放出がより現実的という有識者による政府小委員会の報告書を踏まえ、政府の方針を決定したい」と、汚染処理水の処分に理解を求められた。これに対し、岸氏は放出反対の姿勢を崩さなかったものの、海洋放出を前提にする場合は国民への丁寧な説明や風評被害の対策をすることなど五つの要望をした。

東京電力は汚染水からは放射性物資は取り除いているが、トリチウムだけは除去することができないという。このトリチウムは自然界にも存在していて、人間の体内や魚・貝などの水産物に蓄積することはないとされており、国内外の原発では基準の範囲内であれば、トリチウムを含んだ水を海に放出することが認められている。汚染水をためているタンクは2022年秋にはいっぱいになると予想されている。



汚染処理水が入ったタンクを並べて保管している福島第一原発



福島沖は親潮と黒潮が交わるため様々な種類の魚が獲れる

汚染水？処理水？汚染処理水？この短い記事の中で使い分けられている言葉ですが、漠然と読んでしまうと今10年目の福島が抱えている問題がますます見えなくなってしまう可能性があります。放射性物質が含まれる水を海に放出することへの不安、何より福島の漁業の人たちの立場を考えれば「反対」しかありません。一方でたまり続けている処理水はどうするのかという問題は解決せず、未来へ先送りされるだけです。福島のおいしい魚を守り、周辺住民も守る解決策。それぞれの立場からリスクを伴った決定を受け入れていかなければならないとき、その結論を他人事にするのではなく、自分自身で考えられるようにならなければなりません。福島、日本の未来のため、私たちは自分自身のために「学ぶ」ことを続けていくのだと思います。

(吉信)